

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 赤崎 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」に関する問題の正答率が高い傾向にあり、無回答もほとんどなかった。 「読むこと」「書くこと」に関する問題に課題がある。
	よくできた問題	「話すこと・聞くこと」…資料を用いた目的を理解する問題、目的や意図に応じ、資料を使って話す問題
	努力が必要な問題	「読むこと」…目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する問題 「書くこと」…目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題
算数	全体的な傾向や特徴など	領域別では「図形」と「変化と関係」に関する問題の正答率が高く、「データの活用」に関する問題に課題がある。 観点別では、「知識・技能」に関する問題は正答率が高く、「思考・判断・表現」に関する問題に課題がある。
	よくできた問題	「図形」…公式を使って面積を求める問題 「変化と関係」…速さと道のりを使って時間を求める問題
	努力が必要な問題	「データの活用」…帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標をもっていると考えた児童は全国に比べても高い数値にある。 ・ICTの活用に関して、本校では全国に比べて使用頻度も高く、有効性を感じている児童が多いことがわかった。 ・友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると考えた児童は90%でありながら、自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができると考えた児童は約60%であった。自分の思いを言葉で発したり、文字で表す活動に力を入れる必要がある。 ・自分には、よいところがあると思っている児童は約45%で自己肯定感が低い傾向にあることが分かった。 ・難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していると考えた児童は約45%で、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うと考えた児童は約55%であった。どちらも全国と比べるとかなり低いことがわかった。他者と違う意見や立場になることに不安を感じる児童が多い傾向にあるといえる。 ・1日あたりの読書時間は全国よりもかなり低いことが分かった。読書嫌い・読書離れが国語の「読むこと」に関する問題への正答率に影響していると考えられる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

授業の中に「話し合う活動」と「書く活動」を位置付け、自分の思いをしっかりと表すことができるようにする。
朝自習の時間に読書や新聞を活用した問題、コグトレを使った認知トレーニングなどに取り組む。
継続してICT機器を活用し、情報活用能力を養う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

「赤崎スタンダード」等を用いて、家庭学習の内容や時間等を引き続き家庭に啓発していく。
全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知する。(学校だより・ホームページ)
中学校区で授業参観・情報交換・生徒指導状の諸問題の共有を行い、課題解決の方法を共に探る研修会を実施する。